

■ブラジル：政府、2013年2月から電気料金を値下げへ

政府は2012年9月11日、2013年2月5日から産業用電気料金を28%、家庭用電気料金を16%それぞれ引き下げると発表した。この値下げは、発電会社と配電会社に課されている税金を引き下げることで実現される。大統領は「電気料金の値下げが、我が国の産業部門をより競争力のあるものにする」としている。現状の国内景気の悪化を受け、政府は減税などの景気刺激策を打ち出している。サンパウロ州工業連盟（Fiesp）のパウロ・スカフェ会長は、「電力料金の大幅引き下げはブラジルの製造業にとってコスト削減になる」と歓迎しているが、世界平均と比較するといまだ35%割高であると、一層の引き下げを要請している。地元報道によると、今回の電力料金引き下げにより電力料金は0.329 レアル／kWh（約12.7円／kWh）となるが、世界の平均電力料金0.2155 レアル／kWh（約8.3円／kWh）に比べ50%以上高いとしている。